

# モザンビーク ルリオ大学への留学案内

モザンビークってどんなところ？

内戦!? でも、1995年和平後は長く平和を維持する優等生！  
 国造りで激動の真っ只中！  
 近年は経済成長に世界が注目！  
 豊富な天然資源も発見され、開発ラッシュ！  
 一部、日本にも輸出を開始！

経済指標では、世界最貧国の一つ！  
 自給的農家が約8割か!? 灌漑もインフラもほぼなし！  
 基本データ信憑性なし! 調査や研究もほとんどない!?  
 干ばつ!? 洪水!? サイクロン!? 頻繁な停電!と断水!

歌と踊りが大好き！  
 広大なサバンナに沈む真っ赤な夕日！  
 農家の敵は、野良ゾウ!? 野良ライオン!?  
 近年の流行りはブラジルドラマ！  
 モザンビークと言えば、愛媛県です！  
 ザビエル、遣欧使節団も立ち寄った！  
 信長の黒人家来 弥助 の出身地？



踊りが大好き



農地整備の格差  
 左側南アフリカ、東側モザンビーク



## ルリオ大学と講義参加の機会

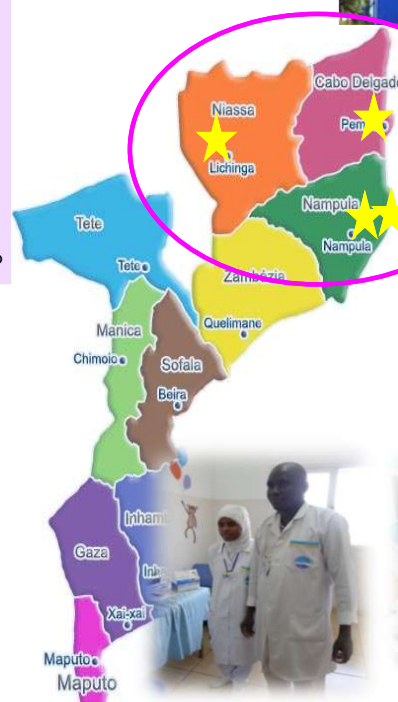
2007年に新設されたモザンビークで2つ目の国立大学。  
 モザンビークでは、教員・専門家の養成が緊急の課題。  
 愛媛大学では、サテライトオフィスを開設し、専門知識の共有やルリオ大学若手教員の大学院受け入れ等を通して、人材育成に尽力中。

医学部、建築学部、ビジネススクール、人間社会学部、工学部、生物学部、農学部が北部3州4つのキャンパスに分散。それぞれの学部がフィールドワーク(FW)を重視し、専門性を活かした近隣コミュニティ支援に注力する。

チューター学生によるポルトガル語会話の練習、クラブ活動や寮生活を通じた学生交流、フィールドワーク中心の講義選択、そして、コミュニティ支援の実践が、留学カリキュラムの中軸。FWでは、医学部が健康や衛生に関する指導、農学部が農業指導、人間社会学部では、観光ツーリズムやコミュニティ生活支援、ビジネススクールでは農村起業に注力する。

他方、工学部、生物学部のあるペンバでは、治安や病気に関する安全管理が難しいため、留学を凍結中。

北部3州に点在する4つのキャンパス



# どんな学びの機会があるのだろうか？

## 基礎

### その1) 超異文化体験で生きる力を身につけよう

アフリカで、非英語文化圏で、農村で、異文化交流ができる！日本の大学では滅多に準備できないほどの異文化度の高い特殊な留学環境で、教員や留学生と交流し、フィールドワークや個別プログラムを通して周辺住民の生活を肌で学びます。ある意味、日本と最も対極にある超異文化社会での経験、交流は、普通の学生生活や留学生活では得られないような体験や気づき、心の引き出し、寛容さ、タフさといった生きる力を獲得する大きなチャンスでもあります。



フィールドワーク授業への参加



農村環境生活調査

### その2) あなただけのプログラム、あなただけの学び

あなたの興味関心にできるだけ沿ったプログラムを準備します。事前準備会を通して目的や期待成果を明確にしなが、あなたのためだけのプログラムを、時に指導教員や現地受入れ教員にも手伝ってもらいながら、一緒に作り上げていきます。留学生受入れに慣れていない国、大学であることを逆手に取った、逆転の発想で、柔軟に主体的に、どこにもない自分だけのプログラムを造り出し、実施します。

## 応用

### その1) 卒業論文、修士論文等を見据えた学習／調査

指導教員の指導に基づいた調査計画をルリオ大学の教員や学生たちと一緒に策定し、実施することは、あなたの研究はもちろんのこと、ルリオ大学の教員・学生にとっても、非常に意義のある経験、訓練となります。指導教員等の手ほどきを受けたしっかりとした手法に基づいた調査・分析を実施することは、非常に効果的な国際貢献なのです。

森林資源利用調査



観光資源調査

### その2) 国際協力、海外勤務等へのキャリアアップ

国際協力の中心はアジアからアフリカへと移ってきています。また、世界展開企業ではタフな人材を求めています。アフリカで国際協力に関する経験を積めるならば、それは非常に大きな武器となります。愛媛大学では、ルリオ大学といくつかの共同プロジェクトを実施しており、ルリオ大学内で、愛媛大学内で、手伝ってくれる学生を随時必要としています。



自作ゲームで環境教育



いちごプロジェクト

## 留学する上での最低限の条件

超異文化社会での生活は、数多くの想定外との遭遇です。安全を確保し、かつ迷惑をかけすぎない留学生生活を過ごす上で、以下を留学のための最低限の条件として設定しています。

- 1) リスク管理、文化理解に関する研修や勉強会への参加  
(勉強会等の準備を通じた留学計画書の作成)
- 2) 海外経験を有する
- 3) 保護者、指導教員の許可
- 4) 旅行保険加入や必要予防接種
- 5) 上記研修等を通じたモザンビーク 交流推進班の判断

学内勉強会



## 興味のある人は、以下に連絡！

国際連携支援部国際連携課学生交流チーム 岩田  
 TEL: 089-927-9157  
 E-mail: kokuryu@stu.ehime-u.ac.jp  
 オフィスの場所: 城北キャンパス  
 愛大ミュージズ2階  
 Or 国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター  
 栗田 英幸  
 E-mail: kurita.hideyuki.mk@ehime-u.ac.jp